認定NPO法人ミュージック・シェアリング
MUSIC SHARING
2023年度

ICEP 2023 ラオス

インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム
International Community Engagement Program

活動報告書

2023年12月27日に訪問した、SCHOOL FOR DEAF & MUTE CHILDREN にて

認定NPO法人ミュージック・シェアリング
〒102-0083 東京都千代田区麹町2丁目5-18 半蔵門ハウス601
TEL:03-6256-9733 E-mail:info@musicsharing.jp
http://www.musicsharing.jp

■　認定NPO法人ミュージック・シェアリングとは

1992年より、成長過程にある子どもたちをはじめ、音楽に触れる機会の少ない人々に本物の音楽を届け、文化・教育・芸術の振興を目的とした活動を行っています。本物の音楽を通して豊かな心を育てるとともに、音楽家の社会貢献活動に対する理解を深める場を提供する音楽プログラムを実施しています。ミュージック・シェアリングの活動は全て、個人、法人からのご寄付・ご支援、助成金、企業協力によって成り立っています。

■　ICEP（インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム）

五嶋みどりと、世界中からオーディションによって選ばれた若手演奏家3名がカルテットを組み、音楽を通じた教育支援と文化交流を行うプログラムです。 毎年12月にはアジアの開発途上地域の学校・病院・施設などを訪れ、翌年6月には日本での「訪問プログラム」に参加、東京と大阪で「活動報告コンサート」を行います。これまでに、ベトナム（2006年）、カンボジア（2007年）、インドネシア（2008年）、モンゴル（2009年）、ラオス（2010年）、バングラデシュ（2012年）、ミャンマー（2013年）、ネパール（2016年）、インド（2017年）、ベトナム(2018年）、カンボジア（2019年）で実施しています。

ICEP 2つの目的

◆未知の文化体験をアジアに

訪問する地域の人々は、身近な場所でクラシック音楽の生演奏を聴く機会がほとんどありません。子どもたちをはじめ、参加する現地の人々に対しては、生のクラシック音楽に触れることで世界観が広がり、相互理解や向上心を育むことを目指しています。

◆世界各国の若手演奏家とともに活動

五嶋みどりとカルテットを組むのは、世界からオーディションにより選ばれた若手演奏家3名。オーディションでは録音審査以外に小論文やメールインタビューの課題を設け、総合的に評価しています。若手演奏家がICEPでの経験を通じて音楽のもたらす力について見つめ直し、音楽家としてできる社会貢献活動とはどのようなことなのか、実体験を通じて認識していきます。

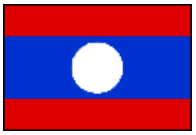
2006年からはじまったICEPの活動はアジア9カ国にて、11回実施。
2023年のラオス訪問は13年ぶり、2度目の訪問となる。

日本での活動

ICEP訪問国での活動を日本国内に発信するため、アジアでのツアーの翌年、日本でカルテットを再結成しています。演奏とともに訪問国での活動について演奏家自身が語る「ICEP活動報告コンサート」の実施に加え、国内の学校・病院・施設等を訪問する「訪問プログラム」にも参加し、子どもたちや社会的に立場の弱い人たちにも本物の音楽を届けます。

■ 訪問国

ラオス人民民主共和国 Lao People‘s Democratic Republic



面積　24万平方キロメートル

人口　744.3万人（2022年、ラオス統計局）

人口増加率　1.4 % (2021, 世界銀行)

首都　ヴィエンチャン（Vientian）

民族　ラオ族（全人口の約半数以上）を含む計50民族

言語　ラオス語

宗教　仏教

※外務省ホームページより

略史

ラオスが歴史に登場するのは14世紀中頃。ラーンサーン王国（ラーンサーンとは百万頭の象という意味)がルアンパバーンに王都を定めた頃からである。16世紀に絶頂期を迎えるも、18世紀に入ると王位争奪戦から、ビエンチャン、ルアンパバーン、チャンパーサックの3つの国に分裂。1893年にはフランスのインドシナ連邦に編入され、ラーンサーン三国はラーオ族のラーオを複数形にして「ラオス」と呼ばれるようになる。

その後も、右派、中立派、左派の対立による抗争と、列強の介入により拡大するベトナムの内戦に巻き込まれ、政治的混乱の時代が続く。1975年12月、ラオス人民革命党の勝利により王制を廃止し、現在のラオス人民民主共和国を無血で樹立した。国連は1971年より、ラオスを開発途上国の中でも特に開発が遅れている国である後発開発途上国（Least Developed Country: LDC）に認定。ラオス政府は2020年までにLDCのから脱却を目標に掲げ、2018年には必要条件を初めてクリアするものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、国連は2026年脱却に向けて準備を進めることを提案、ラオス政府もこれに合意している。

『ラオス国家社会経済開発計画』（NationalSocio-Economic Development Plan: NSEDP）において、「最貧国から脱出するため、国家社会経済開発のための人材育成において非常に重要」という位置づけられ、強化されてきた初等教育の純就学率は、9割を達成。しかし、最終学年到達率は8割程度に留まり、2019年に実施された学習達成度調査では、65%以上の初等教育5年生が適正な習熟度に達しておらず、教育の質の改善が期待されている（東南アジア6カ国で最下位〈SEA-PLM 2019〉）。

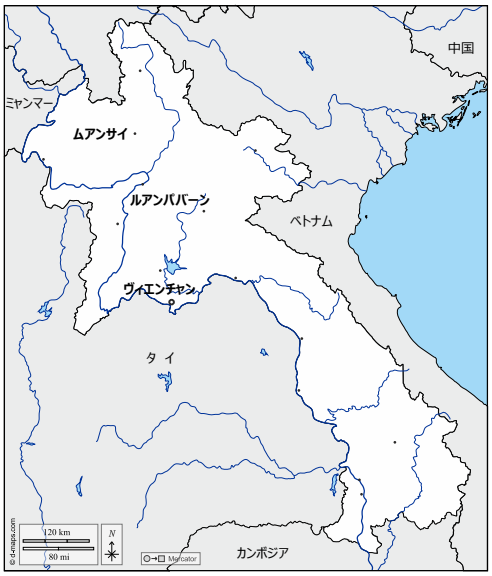
※出典：

・JICA「ラオス概況」（2022年8月）、「アセアン経済共同体とラオス」

・ラオス情報文化観光省観光部ホームページ

訪問地

ヴィエンチャン、ウドムサイ県、ルアンパバーン郡



ベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマー、中国と国境を接し、内陸に位置するラオス。メコン川が南北に流れ、豊富な水資源と豊かな自然に恵まれた国土を有する。

■ 参加アーティスト

Photo: T. Greenfield-Sanders

五嶋みどり（ヴァイオリン）
MIDORI

大阪生まれ。10歳で渡米。同年ニューヨーク・フィルとの協演で楽壇デビュー。以来世界の名だたる音楽家と共演を重ね、40余年を数える。20歳で非営利社会活動団体「Midori&Friends」（米国NY）と「ミュージック・シェアリング」（日本）を設立。使用楽器はグァルネリ・デル・ジェス「エクス・フーベルマン」（1734年作）。現在、カーティス音楽院等で教鞭をとる。
国連ピース・メッセンジャー。
https://www.midori-violin.com/

Photo: Lucía Alonso

エレノア・デ・メロン（ヴァイオリン）
Ellinor D'Melon

ジャマイカ生まれ。キューバ人の両親のもとで2歳からヴァイオリンを始める。11歳よりソフィア王妃高等音楽院（スペイン）でザハール・ブロン教授に師事。世界の由緒あるホールでロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団(イギリス）、マリインスキー劇場管弦楽団(ロシア) 等と共演を重ねる。演奏楽器は匿名貸与された1743 年製のG.B.グァダニーニ。
http://ellinordmelon.com/

笠井大暉（ヴィオラ）
Hiroki Kasai

東京生まれ。4歳よりヴァイオリンに親しむ。ラガーディア高校・音楽芸術部門(米国)卒業後、渡英。王立音楽院、国際メニューイン音楽アカデミーで学び、国際音楽アカデミー小澤征爾塾(スイス)でも研鑽を積む。2022年ソフィア王妃高等音楽院(スペイン)にヴィオラ専攻で入学、今井信子の薫陶を受ける。ヴァイオリン、ヴィオラ奏者として欧米、アジア各地で広く活躍中。

Photo: Juan de la Fuente

アレハンドロ・ゴメス・パレハ（チェロ）
Alejandro Gómez Pareja

スペイン、マドリッド生まれ。4歳からチェロを弾き始める。現在はソフィア王妃高等音楽院（スペイン）にて、イェンス=ペーター・マインツに師事。パブロ・カザルス国際チェロ・コンクールにて準優勝し、指揮者ダーヴィト・アフカム、アロンドラ・デ・ラ・パーラ等とも共演するなど、ソリスト、室内楽奏者として情熱的、献身的に活動している。

■ 協力

クリスティアン・ザラテレーバ(コーディネーター）
Kristina Zlatareva

ブルガリア生まれ。ミシガン大学ノースウェスタン音楽部でヴァイオリンとヴィオラを教えるかたわら、NPO団体 "スフィンクス・グループ" の弦楽部にて後進指導を行う。優れた演奏家であり、教育者、芸術分野における起業家でもある。

Photo: Fred R. Conrad

ハンナ・イシザキ（作曲家）
Hannah Ishizaki

米国 NY在住の作曲家。"演奏家と聴衆のつながりを育むこと"を目指す曲は、国際的にも認められ、頻繁に演奏されている。活発なヴァイオリニスト、プロデューサー、指揮者としても活躍している。

■ 活動概要

活動期間　2023年12月18日～12月27日

コンサート回数　計30回（訪問施設19か所）

参加者総数　約4,800名

主催　認定NPO法人ミュージック・シェアリング

助成　一般財団法人MRAハウス

寄付　株式会社槌屋

協賛　キッコーマン株式会社、株式会社ＵＡＣＪ、花王株式会社、株式会社ダイナトレック

協力　UNICEF(国連児童基金)、認定NPO法人SOS子どもの村JAPAN、認定NPO法人ジャパンハート、認定NPO法人難民を助ける会、認定NPO法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN、認定NPO法人ラオスのこども、Asian Development for Disabled Persons(ADDP)、Big Sister Mouse、Give Children A Choice、Hands of Hope School 、SALA SUJIPULI、株式会社オフィスGOTO

演奏曲

ベートーヴェン　交響曲第5番ハ短調「運命」作品67　より
チャイコフスキー　バレエ組曲「くるみ割り人形」 より
カミーユ・サン＝サーンス 「動物の謝肉祭」 より　他

■ スケジュール

スペイン マドリッドにてリハーサルを重ね、ラオス入国後、首都ヴィエンチャンにてリハーサルを継続。ICEPカルテットはヴィエンチャン、中国との国境に近いウドムサイ県、ルアンパバーン郡の村々を訪れ、10 日間のツアーを終了しました。

日程	訪問地	No.	訪問先	協力
12月17日　日	ヴィエンチャン		ラオス到着	
12月18日　月		1	HOUANGKHAO PRIMARY SCHOOL（学校）	Action with Lao Children〈ALC〉特定非営利活動法人ラオスのこども
		2	HOUEYHONG VOCATIONAL CENTER（職業訓練所）	
12月19日　火		3	LAO-KOREA CHILDREN'S HOSPITAL（小児病院）	Japan Heart 特定非営利活動法人ジャパンハート
		4	SCHOOL FOR VISUALLY IMPAIRED（学校）	Association for Aid and Relief, Japan〈AAR Japan〉特定非営利活動法人難民を助ける会
12月20日　水	ウドムサイ県	5	OUDOMXAY REGIONAL HOSPITAL（病院）	Japan Heart 特定非営利活動法人ジャパンハート
12月21日　木	ルアンパバーン郡	6･7	BIG SISTER MOUSE SCHOOLS（学校）	Big Sister Mouse
		8	CHILDREN'S CULTURAL CENTER（児童施設）	UNICEF 国連児童基金
12月22日　金		9	LAO FRIENDS CHILDREN HOSPITAL（LFHC）（小児病院）	Friends Without A Border Japan 特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN
		10	SOS Hermann Gmeiner School（学校）	SOS Children's Villages 特定非営利活動法人SOS子どもの村JAPAN
12月23日　土		11	SOS Children's Villages（児童施設）	
		12	BAN MAR ORPHANAGE（孤児院）	Give Children A Choice
12月24日　日		13	THINKEO VILLAGE SCHOOL（学校）	UNICEF 国連児童基金
12月25日　月	ヴィエンチャン	14	SCHOOL FOR CHILDREN WITH DISABILITIES（学校）	Association for Aid and Relief, Japan〈AAR Japan〉特定非営利活動法人難民を助ける会
12月26日　火		15	SAKA HIGH SCHOOL（学校 ）	Action with Lao Children〈ALC〉特定非営利活動法人ラオスのこども
		16	HINHEUB VILLAGE SCHOOL（学校）	
		17	SALA SUJIPULI CHILDREN'S CENTER（児童施設）	SALA SUJIPULI
12月27日　水		18	MINNANO CAFÉ（地域施設）	Asian Development for Disabled Persons（ADDP）
		19	SCHOOL FOR DEAF & MUTE CHILDREN（学校）	Hands of Hope School

■ 各訪問先と活動の様子

●12月18日【ヴィエンチャン北部】

1. HOUANGKHAO PRIMARY SCHOOL
協力：Action with Lao Children〈ALC〉特定非営利活動法人ラオスのこども

HOUANGKHAO PRIMARY SCHOOLは、少数民族の子どもや多様な経済的背景を持つすべての子どもを支援する教育機関であり、2014年に保育園、2015年に幼稚園、2017年に小学校を開校しました。日本式の学校教育を取り入れ、自主的な考えを持ち、自ら行動する人間育成を目標に、日々授業を行っています。母国語であるラオス語のカリキュラムに基づき、同時に英語と日本語の授業も取り入れ、将来のラオスを牽引するリーダーの育成を目指しています。この学校は、ラオスの教育と識字率向上支援の先駆者であるチャンタソン・インタヴォン氏が運営する特定非営利活動法人「ラオスのこども」によって直接支援されています。

- 参加者：約200名（保育園～小学5年生、約50人の4クラス）
- 演奏へのお礼として、100人ほどの子どもたちが、踊りや歌を披露しました
- ICEPカルテットは、ラオス国営テレビのインタビューを受けました

1.小学校の生徒たちと

2. HOUEYHONG VOCATIONAL CENTER
(ホアイホン職業訓練センター)
協力：Action with Lao Children〈ALC〉特定非営利活動法人ラオスのこども

ホアイホン職業訓練センターはHOUANGKHAO PRIMARY SCHOOLの向かいにあり、650人以上の女性たちに、受け継がれてきた文化を通じて自活できるように訓練してきました。天然染料や織物のワークショップを開催したり、ラオスの伝統的な絣である「イカット」の製作技術も教えるなど、文化伝承の役割も果たしています。このセンターは、「ラオスのこども」の設立者、チャンタソン・インタヴォン氏によって設立され、女性が仕事や教育を通じて、自分自身が選んで自立する人生を持つ機会を創出しています。

- 参加者：約60名（職業訓練を受ける女性とセンター在住の職員）
- 演奏後にICEPメンバーは女性たちと交流し、ラオスの伝統的な織物や衣装の製作を見学しました

2. イカットの飾られた会場でコンサート

2. 伝統的な布製作を体験

ラオスの味　ヌードルとココナッツジュース

●12月19日【ヴィエンチャン】

3. LAO-KOREA CHILDREN'S HOSPITAL
協力：Japan Heart　特定非営利活動法人ジャパンハート

LAO-KOREA CHILDREN'S HOSPITALは、乳幼児医療を提供することを目的とした政府の管轄施設です。運営資金が不足しており、病院はジャパンハートなどの外部団体から支援を受けて運営されています。一日1,500人以上の患者を診療し、ジャパンハートが養成し、熟練した医療従事者の助けを借りて、幅広く病気や症状の治療を行っています。

- メインロビーで演奏を行いました。演奏が始まると病院内のあちらこちらから人々がメンバーの周りに集まり、演奏を楽しみました
- ジャパンハートのスタッフの協力により、個々の患者さんへ各メンバーによるソロ演奏も行いました
- 子どもたちは演奏者と交流し、楽器に触れたりすることができました

3. 患者の家族が待つメインロビーでの演奏

4. SCHOOL FOR VISUALLY IMPAIRED
協力：Association for Aid and Relief, Japan <AAR Japan>
特定非営利活動法人難民を助ける会

SCHOOL FOR VISUALLY IMPAIREDは、首都ヴィエンチャンの西部にある視覚障害者のための学校で、80人以上の子どもと若者を教育と住居を支援する施設です。政府管轄機関である眼科学センターの敷地内にあるこの学校は、ラオスで数少ない視覚障害のある子どものための学校のひとつです。生徒たちは視覚障害があるが故に、音に対してとても敏感で、演奏に非常に熱心に耳を傾けました。
日本で生まれ、国連に認定・登録されている国際NGO「難民を助ける会<AAR Japan>」は紛争や災害で困難に直面している人々を支援し、誰もが希望を持てる社会を目指しています。

- 参加者：約30名(孤児であり、学校を宿舎とする生徒)
- 個々の子どもたちのもとに行き、楽器に触れさせて、どのように演奏されるかについて体験してもらうことができました
- カルテットが弾き語る、ラオスの伝統的な民話「サルとワニのお話」を上演。生徒が直接コンサートに参加することができ、皆のお気に入りとなりました！

4. 楽器の演奏に「触れる」体験の様子

●12月20日【ウドムサイ県】

5. OUDOMXAY REGIONAL HOSPITAL
協力：Japan Heart　特定非営利活動法人ジャパンハート

OUDOMXAY REGIONAL HOSPITALは、ラオスと中国の国境近くに位置し、政府が管轄する、ラオス北部では数少ない病院のひとつです。交通網が整理されておらず、電車で最短でも3時間、車で13時間かかる道のりをジャパンハートのスタッフが同行してくれたことで、ICEPカルテットの訪問が実現しました。病院では看護師が足りず、家族に付き添われた患者たちが治療を受けていました。患者のほとんどは貧困に苦しみ、遠く離れた農村地域から来院しています。なかには400kmも離れた山岳地帯から、何日もかけてこの病院にたどり着くという現実がメンバーたちの心に残りました。

- コンサート回数：3回（待合室にて）
- ５病棟（未熟児、感染症患者、産科、小児科、外科）にて、メンバーがソロ演奏を行いました

5. コンサートやソロ演奏…午後いっぱいを通して、さまざまな形で演奏しました

●12月21日【ルアンパバーン郡】

6. BIG SISTER MOUSE SCHOOL
7. BIG BROTHER MOUSE SCHOOL
協力：BIG SISTER MOUSE

ルアンパバーン郊外の村にあるBIG SISTER MOUSE SCHOOLは、若者がより良い教育を受けられるよう支援する学校です。構内にある学習センターでは、毎日1,000人以上の子どもと若者が訓練を受けています。若者たちは、ライティングスキル、英語、数学、コンピューターなどの学習から、より広範な問題解決力に至るまで、高校では得られなかった多くのスキルを学ぶことができます。午後にはBIG SISTER MOUSE の運営する、BIG BROTHER MOUSE SCHOOLを訪問しました。どちらの学校の生徒も、全員英語で話せるので、通訳を介さずにメンバーと直接交流することができ、彼らの好奇心たるや感動的でした。生徒たちはルアンパバーン周辺の村々から通学しています。

第一部　BIG SISTER MOUSE SCHOOL
- 参加者：約1,000名
- コンサート回数：4回（各約250名）

第二部　BIG BROTHER MOUSE SCHOOL
- 参加者：約100名

6. 約250名参加するコンサートを4回公演

6.7. 好奇心旺盛な子どもたちと

8. CHILDREN'S CULTURAL CENTER
協力：UNICEF ユニセフ（国連児童基金）

ルアンパバーン市内中心部に位置するCHILDREN'S CULTURAL CENTERは、ラオスの子どもや若者を対象に、自国の文化や伝統について学ぶ活動を、放課後や週末に行っています。伝統音楽、演劇、ストーリーテリング、歌など多様な芸術・工芸の活動に参加することで、自分たちのルーツについて学び、健康的なライフスタイル、文化財の管理、文化保護を奨励するスキルを身につけます。この訪問はユニセフの協力により行われ、ラオス情報文化観光省のメンバーも同行しました。

- 参加者：400名以上（ルアンパバーン周辺の山岳地帯の村他、複数の学校の生徒、教職員）
- 演奏後、子どもたちは丁寧に準備されたラオスの伝説に基づいた伝統的な人形劇を演じてくれました
- 若者がジャーナリズム、ライティング、メディアアートについて学ぶことができる教育プログラム「ユニセフ・ユース・メディア・チーム」の生徒たちが、ICEPがラオスで演奏した経験について、五嶋みどりにインタビューしました

8. たくさんの学校から生徒が集まった会場

8. インタビューに応じる五嶋みどり

●12月22日【ルアンパバーン郡】

9. LAO FRIENDS CHILDREN HOSPITAL（LFHC）
協力：Friends Without A Border Japan
特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

LAO FRIENDS CHILDREN HOSPITALは、ルアンパバーン郡のラオス北部の子どもたちに無料で質の高い医療を提供する唯一の病院です。病院は年間38,000人以上の患者を治療しています。ラオスでは、マラリア、肺炎、下痢など、予防可能な病気で命を落とす子どもが多くいます。2015年の開設以来、20万人以上の困窮する子どもたちが無料医療を受けてきました。保護者や病院スタッフの協力を得て午前中いっぱい演奏を行い、子どもたちはコンサートを十分に楽しむことができました。

- 参加者：約400名（患者と家族）
- 身体的、精神的障害、症状を持つ子どもたちとの特別なインタラクティブ・パフォーマンスを行いました

9. インタラクティブ・パフォーマンスの様子

10. SOS Hermann Gmeiner School
協力：SOS Children‘s Villages 特定非営利活動法人SOS子どもの村JAPAN

ヘルマン・グマイナーは、1981年に「SOS子どもの村」のスタッフとともに、教育のための場所を提供するため、SOS Children‘s village Hermann Gmeiner Academy を設立しました。ルアンパバーンのこの学校は、教育を受ける機会がなかった、孤児や低所得家庭の650人以上の子どもたちに、質の高い教育を提供しています。学生の大半は、モン族、アカ族、クム族など、ラオス北部の少数民族の出身です。学校では、伝統的なラオス音楽のクラスを設けており、普段から伝統音楽に慣れ親んでいる高校生にとっても、 ICEP カルテットの演奏は非常に魅力的で有益であると感じられたことでしょう。

- 参加者：約325名
- コンサート回数：2回
- 授業の合間を縫って野外演奏をしました

10. 300名を超える子どもたちに囲まれて演奏

●12月23日【ルアンパバーン郡】

11. SOS Children's Village
協力：SOS Children‘s Villages 特定非営利活動法人SOS子どもの村JAPAN

前日に訪問したSOS Hermann Gmeiner Schoolの隣にあるSOS Children‘s Villageは、1995年以来、ラオスで育児放棄を受けている、もしくは受ける危険性の高い子どもや若者を支援してきました。貧困は過去数十年で減少しましたが、ラオスの総人口の23%は依然として貧困状態以下の生活しており、その約80%が農業に携わる人々です。貧困は劣悪な影響を与え、子どもたちは長く栄養不良状態のまま放置されたり、教育の機会を奪います。児童労働や児童婚の被害にさらされることもあります。
ICEPカルテットは、今回の訪問では0歳から7歳までの幼児や子どものために演奏しました。子どもたちは社会的に極めて弱い立場にあり、彼らを守るために介護者や教師が付き添っていました。

11. カルテットの演奏に聴き入る子どもたち

12. BAN MAR ORPHANAGE
協力： Give Children A Choice

Give Children A Choiceは、孤児院の子どもたちを数年間にわたり支援してきました。最近では、全員に新しい歯ブラシと歯磨き粉を提供するなど、子どもに衛生用品を提供し、衛生と健康の重要性を教えています。組織全体の目標としては、幼稚園を建設して、地域社会に対して教育の真の重要性について啓蒙活動を行い、理解を得ることにあります。そしてアジア全域に多くの幼稚園を建設し、アジアの子どもたちが皆、自らの人生に選択技の持つことのできるように全力を注いでいます。今回のラオスの訪問先の中では、最大規模の孤児院であり、ここには若年から成人まで600人以上の子どもが住んでいます。政府によって運営されているものの、衛生と教育のための十分な資金がありません。
一部の教室にはドアや床が補修されていない場所もありましたが、それでも子どもたち、保護員はICEPの訪問を心から歓迎し、熱心に参加してくれました。

- コンサート回数：4回（4教室を訪問）

12. 元気いっぱいの孤児院の子どもたちと

●12月24日【ルアンパバーン郡】

13.THINKEO VILLAGE SCHOOL
協力：UNICEF ユニセフ（国連児童基金）

ユニセフは、ラオスの子どもと女性の権利を促進し、保護するために活動しています。ラオスでの活動は45年以上におよび、国内で最も長い歴史を持つ国際機関のひとつです。ユニセフの教育プログラムは、ラオスのすべての子どもたちに質の高い幼児教育と基礎教育を保障するために、国や地方レベルで運営されており、特に遠隔地や恵まれない子どもたちにその焦点を当てています。ラオスには160もの民族が存在し、そのひとつである山岳民族、クム族の人々が参加したこのコンサートはすべて、午前中にセッティングされました。参加者全員が農民であり、午後は田んぼで働くための時間とされているからだったのです。

- 参加者：約250名（クム族の子どもとその家族）
- コンサート回数：3回

13. 忙しい農作業の合間を縫って、コンサートに参加した、山岳民族クム族の子どもたち

●12月25日【ノングニュー村】

14. SCHOOL FOR CHILDREN WITH DISABILITIES
協力：Association for Aid and Relief, Japan <AAR Japan>
特定非営利活動法人難民を助ける会

ビエンチャン西部のノングニュー村にある新しい学校で、ラオス政府が運営する数少ない施設のひとつであり、障害のある生徒の成長と夢の実現を目途としています。学校では、まざまな種類の身体障害、発達障害、知的障害を持つ430人の生徒が学んでいます。家庭内だけでなく、社会的にも差別を経験した学生たちのために、このコンサートは、メンバーが生徒に寄り添い、生徒がそれぞれ自由に演奏を体験できるように構成されました。ICEPカルテットにとっては本物の音楽の力を目前にして、社会活動の意義を知る素晴らしい経験となりました。

- 参加者：約430名(全生徒とスタッフ)
- コンサート回数：3回

14. コンサートを終えて

●12月26日【ヴィエンチャン】

15. SAKA HIGH SCHOOL

協力：Action with Lao Children〈ALC〉 特定非営利活動法人ラオスのこども

「ラオスのこども」は、非政府・非営利組織です。子どもたちが自ら未来を創造する権利と能力を身につけるための教育の一環として、読書推進活動を行うことで、子どもたちの自ら学ぶ力を育むための環境づくりに力を入れ、公正なグローバル社会の実現を目指しています。ALCは、1982年にチャンタソン・インタヴォン氏によって設立され、「ラオスの子どもたちに絵本を送る会」として日本でスタートし、その後、ラオス語図書の出版、図書館設置活動へと活動の場を広げてきました。現在、ラオスと日本に2つのオフィスを置いています。生徒たちは厳しい生活環境のなかで、総合的な教育を受けています。

15. 図書館で開催されたコンサート

- 国内に数少ない既存の図書館で行われました
- 参加者：約400名(全生徒とスタッフ)
- コンサート回数：3回

16. HINHEUB VILLAGE SCHOOL

協力：Action with Lao Children〈ALC〉 特定非営利活動法人ラオスのこども

ヒンフープ村には 1982年の「ラオスのこども」設立当時、国立図書館と書店が1軒ずつしかなく、ラオスには児童書がありませんでした。現在でも、僻地の子どもたちは、物語を読んだり書いたりする機会がほとんどありません。「ラオスの子ども」は、視野を広げ、自分の考えを表現する能力を高め、ラオスの子どもたちが自らの人生の道を切り開き、公正で平和なグローバル社会へ導いていくことを願っています。この学校は、ICEPカルテットが今回訪問した最大の教育機関で、小学生から高校生まで約1,000人の生徒が通っています。生徒たちは農村部の出身で、彼らの教育は、ラオスの学校の識字率の向上を目的とする「ラオスの子ども」に支援されています。かつてはモン族が犠牲になった1975年の「ヒンフープ虐殺」の舞台となり、少数民族の暮らす山岳地帯の農村であるこの村でも、今ではさまざまな民族が共存しています。「ラオスの子ども」はヒンフープの学校教育を通して、画期的に開かれた社会を目指して支援を続けています。

16. ヒンフープ村の学校にて

17. SALA SUJIPULI CHILDREN'S CENTER

協力：SALA SUJIPULI

SALA SUJIPULIは、ラオスの4歳から15歳までのすべての子どもたちに教育、レクリエーション、学習教材と活動を提供することにより、若者が自分の将来の選択ができる権利の確立を育む、持続可能な生涯学習の機会を創出することを目的としたプロジェクトです。ラオスには、子どもたちが学校生活の中で学ぶための良い環境を提供している場所はほとんどありません。SALA SUJIPULIは、学校に代わる学習の場を提供し、センターの活動を通して、子どもたちが授業前、授業中、放課後の時間に人と交流することで、読解力(主に母国語)を伸ばし、研究能力、批判的思考力、創造性を養うことを目指しています。

17. ラオスの弦楽器「ケン」を持つ子どもたちと

- 参加者：約50名（生徒、保護者、スタッフ）
- 演奏後は質疑応答セッションを行いました
- 子どもたちは伝統的なラオス固有の管楽器「ケン」の演奏と、歌の合奏を演奏してくれました

●12月27日【ヴィエンチャン】

18. MINNANO CAFÉ

協力：Asian Development for Disabled Persons <ADDP>

ラオスを拠点に活動する日本のNGO Asian Development for Disabled Persons (ADDP)は障害者の社会的自立と参加を奨励するインクルーシブ〈誰もが社会から排除されない〉実現を目指して支援しています。ADDPは、障害者のエンパワーメント（本来持っている力を発揮すること）を促進し、職業訓練やスポーツを通じた人材育成のロールモデルとなっています。MINNANO CAFEは、ラオス社会における障害者のインクルーシブを促進するための非営利団体として運営されている居心地の良いベーカリーです。ADDPの支援を受けて、このカフェはさまざまな障がい者を雇用・育成し、キャリアや社会の発展のための公平な機会を創出しています。ICEPカルテットは、活動最終日に訪れ、おもてなしと友情で迎えられました。カフェでのコンサートは、参加者がそれぞれに自由に見て、聞いて、触れて演奏を楽しめるように、和やかな雰囲気で行われました。

18. MINNANO CAFÉの前にて

- 参加者：約34名（カフェに集う人々、ADDPの指導員）
- コンサートには、小林賢一駐ラオス日本国大使が臨席されました

19. SCHOOL FOR DEAF & MUTE CHILDREN

協力： Hands of Hope School

ドンマッカイ村にあるHands of Hope Schoolでは、聴覚、音声障害のある子どもや若者が学び、前向きに生きるための教育をしています。この学校は質の高い教育を提供し、子どもたちは放課後の活動を同年代のボランティアと過ごし、社会に溶け込み、社会の一員となることを助長します。コンサートは、耳が聞こえず、話せない子どものための、他に類を見ないものでした。ラオスでは補聴器などの機器はほとんど入手できず、補聴器を利用できる子どもはほんの一握りでした。しかし、子どもたちは楽器の振動を通して音楽を「感じる」という、またとない機会に恵まれました。生徒たちは通常のコンサートのように距離を置いて座るのではなく、演奏者の周りに座り、楽器や身体の動きを感じました。彼らはパフォーマンスの一部となりえたようでした。ICEPカルテットのメンバーにとっても、多くのことを深く、また広く考えさせられる体験となりました。

19. 楽器の振動を通して音楽を「感じる」

- 参加者：約45名（生徒、スタッフ）
- コンサート回数：2回

おわりに

パンデミックを経て、4年ぶりにICEPカルテットのアジアでの活動を再開した2023年。ラオスを訪問したICEPカルテットは、日本、米国、ブルガリア、ジャマイカ、スペインなど、さまざまな国籍とバックグラウンドを持つメンバーで構成されています。スペインのマドリッドでリハーサルが始まり、ビエンチャンに移動後もリハーサルが続き、10日間のツアーが始まりました。首都ヴィエンチャン広域、ラオスと中国の国境に近いウドムサイ県北部、ルアンパバーン郡の周辺の村々を廻り、30回のコンサートを行いました。
日系アメリカ人の作曲家、ハンナ・イシザキがICEPカルテットのために作成したインタラクティブ・パフォーマンスは、ラオスの伝統的な民話「サルとワニのお話」を題材にした作品で、ラオスの子どもたちのお気に入りとなりました。
このツアーでは、ラオスで活動する多くの団体からの協力を得て、4,800名を超える参加者の皆様へ、親善と友愛の思いをこめてクラシックの生演奏を届けることができました。その出会いに心から感謝するとともに、すべての協力者の皆様に改めて御礼申し上げます。

認定NPO法人
ミュージック・シェアリング

〒102-0083 東京都千代田区麹町2丁目5-18　半蔵門ハウス601
TEL:03-6256-9733　E-mail:info@musicsharing.jp
http://www.musicsharing.jp